

1 青森県の推計人口（平成16年7月1日現在）…………… 1

県人口	1,452,449人	（対前月 395人減少、対前年同月 7,977人減少）
自然動態	79人減少	（出生者数 985人、死亡者数 1,064人）
社会動態	316人減少	（転入者数 1,413人、転出者数 1,729人）

2 本県の経済動向

(1) 経済概況

本県経済の動向をみると、需要や雇用情勢が依然として厳しい中で、鉱工業生産が増加しており、一部に持ち直しに向けた動きがみられる。

(2) 主要経済指標の動向

- (2-1) 製造業の生産動向 平成16年5月の青森県鉱工業生産指数(平成12年=100)は、季節調整済指数が96.2で、前月比3.4%の上昇となり、2ヶ月連続で前月を上回った。また、原指数は95.9で、前年同月比10.5%の上昇となり、4ヶ月連続で前年同月を上回った。  
{ 化学工業を除いた指数では、季節調整済指数が101.4で、前月比8.4%の上昇(2ヶ月連続)、原指数が95.9で、前年同月比13.9%の上昇(6ヶ月連続)となった。} … 2
- (2-2) 雇用情勢 平成16年5月の現金給与総額は240,815円で前年同月比2.2%増となった。このうち、定期給与は232,924円で0.4%増となった。総実労働時間は、150.0時間で前年同月比3.0%減となり、所定外労働時間では8.8時間で前年同月比19.9%増となった。  
 平成16年6月の有効求人倍率は0.33倍で、前月を0.01ポイント上回った。 … 3
- (2-3) 物価 平成16年6月の青森県消費者物価指数は、総合指数で100.0となり、前月比0.2%の上昇、前年同月比0.3%の上昇となった。 … 4
- (2-4) 個人消費 平成16年5月の大型小売店販売額は、全店舗ベースで前年同月比0.3%減の150億4千万円となり、既存店ベースでも前年同月比4.1%減となった。  
 平成16年6月の軽自動車を含めた乗用車新車登録・届出台数は4,026台で、前年同月比3.4%の減となり、5ヶ月連続で前年を下回った。 … 5
- (2-5) 住宅建設 平成16年6月の新設住宅着工戸数は757戸で、持家、貸家などの減少により前年同月比31.4%減となり、2ヶ月連続で前年を下回った。 … 6
- (2-6) 公共投資 平成16年6月の公共工事請負金額をみると、前年同月比21.1%減となった。 … 6

(3) 景気動向指数（平成16年5月分）…………… 7

先行指数	55.6%	（4か月連続で50%を上回った）
一致指数	75.0%	（4か月連続で50%を上回った）
遅行指数	42.9%	（2か月ぶりに50%を下回った）

(4) 青森県景気ウォッチャー調査（平成16年7月分）…………… 8

3ヵ月前と比べた景気の現状判断DI	44.9	（前期比2.1ポイント減、13期連続50を下回る）
3ヵ月後の景気の先行き判断DI	49.5	（前期比1.8ポイント減、2期ぶりに50を下回る）

# 1 青森県の推計人口（平成16年7月1日現在）

## 【概況】

平成16年7月1日現在の本県推計人口は、1,452,449人で、前月に比べ395人の減少、前年同月に比べると7,977人の減少となった。

### ○自然動態

出生者数が985人、死亡者数が1,064人で、79人の減少となった。

### ○社会動態

転入者数が1,413人、転出者数が1,729人で、316人の減少となった。

総人口の推移

(単位:人)

	総数	性別		対前月増減率	増減数	自然増減数	自然増減		社会増減数	県外からの転入者数	県外への転出者数
		男	女				出生者数	死亡者数			
昭45.10.1	1,427,520	685,477	742,043	-	10,929	-	-	-	-	-	-
50.10.1	1,468,646	707,232	761,414	-	41,126	-	-	-	-	-	-
55.10.1	1,523,907	735,444	788,463	-	55,261	-	-	-	-	-	-
60.10.1	1,524,448	731,439	793,009	-	541	-	-	-	-	-	-
平2.10.1	1,482,873	704,758	778,115	-	-41,575	-	-	-	-	-	-
7.10.1	1,481,663	704,189	777,474	-	-1,210	-	-	-	-	-	-
12.10.1	1,475,728	702,573	773,155	-	-5,935	-	-	-	-	-	-
15.7.1	1,460,426	693,599	766,827	-0.009%	-131	-53	992	1,045	-78	1,559	1,637
15.8.1	1,460,013	693,336	766,677	-0.028%	-413	-49	1,069	1,118	-364	2,089	2,453
15.9.1	1,460,389	693,613	766,776	0.026%	376	-75	1,000	1,075	451	2,639	2,188
15.10.1	1,460,050	693,437	766,613	-0.023%	-339	-99	1,040	1,139	-240	1,842	2,082
15.11.1	1,460,172	693,492	766,680	0.008%	122	-53	1,037	1,090	175	2,165	1,990
15.12.1	1,459,893	693,300	766,593	-0.019%	-279	-205	870	1,075	-74	1,368	1,442
16.1.1	1,459,478	693,077	766,401	-0.028%	-415	-248	896	1,144	-167	1,364	1,531
16.2.1	1,458,897	692,740	766,157	-0.040%	-581	-415	998	1,413	-166	1,334	1,500
16.3.1	1,458,159	692,330	765,829	-0.051%	-738	-296	912	1,208	-442	1,252	1,694
16.4.1	1,452,455	688,993	763,462	-0.391%	-5,704	-243	1,036	1,279	-5,461	4,532	9,993
16.5.1	1,453,207	689,495	763,712	0.052%	752	-160	999	1,159	912	4,749	3,837
16.6.1	1,452,844	689,216	763,628	-0.025%	-363	-242	942	1,184	-121	1,555	1,676
16.7.1	1,452,449	688,905	763,544	-0.027%	-395	-79	985	1,064	-316	1,413	1,729

6月中の人口動態の推移

(単位:人)

年月		平7.6	8.6	9.6	10.6	11.6	12.6	13.6	14.6	15.6	16.6
自然動態	出生者数	1,298	1,154	1,169	1,220	1,160	1,142	1,005	967	992	985
	死亡者数	938	933	970	1,041	1,034	971	1,008	1,011	1,045	1,064
	自然増減数	360	221	199	179	126	171	-3	-44	-53	-79
社会動態	県外からの転入者数	1,823	1,587	1,648	1,604	1,554	1,567	1,451	1,406	1,559	1,413
	県外への転出者数	1,648	1,559	1,568	1,566	1,533	1,653	1,658	1,655	1,637	1,729
	社会増減数	175	28	80	38	21	-86	-207	-249	-78	-316

※1 平成2、7、12年は国勢調査による数値。

※2 平成15年7月1日から平成16年7月1日までの人口は平成12年国勢調査人口（確定値）を基礎に推計している。

※3 増減数は、平成2、7、12年が前回、その他が前月に対するものである。

※4 算出方法 県の推計人口＝前月の人口＋自然増減数（出生者数－死亡者数）＋社会増減数（県外からの転入者数－県外への転出者数）

※5 これまで社会動態の算定には、県間移動数に加え県内市町村間移動数も含めていたが、県間移動数に修正を行なった為、過去の公表数値と異なっている。

※6 県の推計人口には、県内市町村間の移動者数を含んでいない為、各市町村の推計人口の総計とは一致しない。

## 2 本県の経済動向

### (2) 主要経済指標の動向

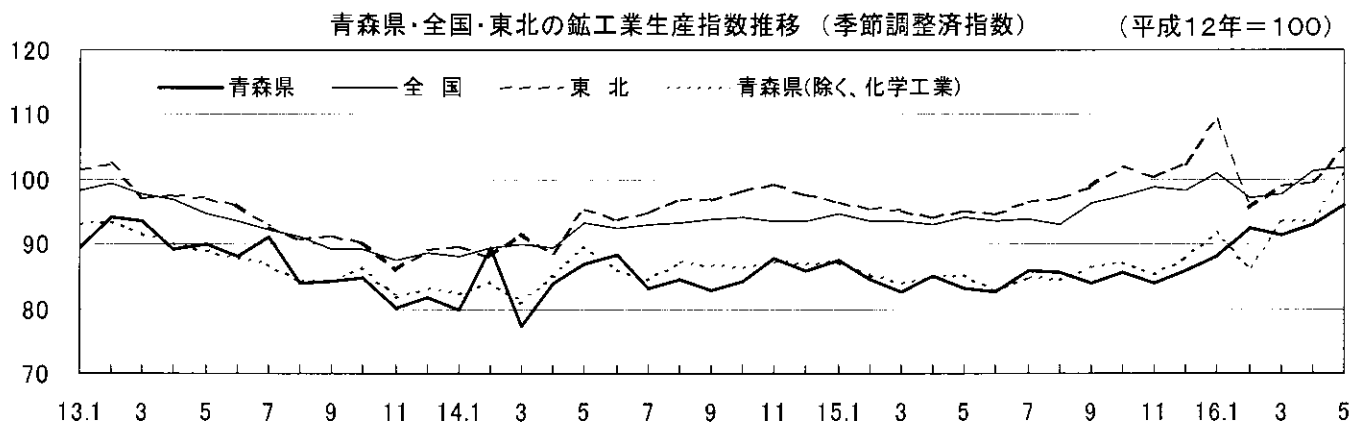
#### (2-1) 製造業の生産

平成16年5月の青森県鉱工業生産指数(平成12年=100)は、季節調整済指数が96.2で、前月比3.4%の上昇となり、2ヶ月連続で前月を上回った。また、原指数は95.9で、前年同月比10.5%の上昇となり、4ヶ月連続で前年同月を上回った。

季節調整済指数で前月からの動きをみると、食料品工業、一般機械工業、精密機械工業などが上昇に寄与した一方、金属製品工業、化学工業、繊維工業などが低下し、鉱工業全体では3.4%の上昇となった。

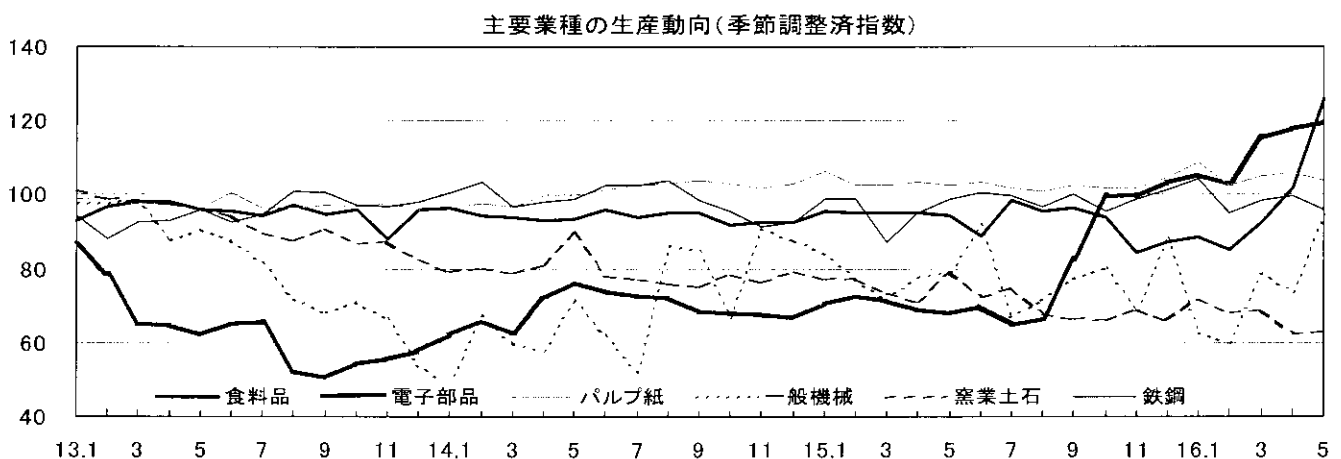
(化学工業を除いた指数について)

季節調整済指数が101.4で、前月比8.4%の上昇(2ヶ月連続)、原指数が95.9で、前年同月比13.9%の上昇(6ヶ月連続)となった。



#### ◎業種別動向 (前月比)

業種	プラス		マイナス		
	前月比(%)	寄与率(%)	業種	前月比(%)	寄与率(%)
(鉱工業)	3.4	100.0			
食料品工業	23.7	97.1	金属製品工業	-36.0	-25.9
一般機械工業	28.6	19.6	化学工業	-25.3	-15.2
精密機械工業	17.4	7.4	繊維工業	-6.3	-3.9
プラスチック製品工業	23.3	6.0	鉄鋼業	-3.7	-3.0
電気機械工業	7.2	5.6	パルプ・紙・紙加工品工業	-2.0	-2.7



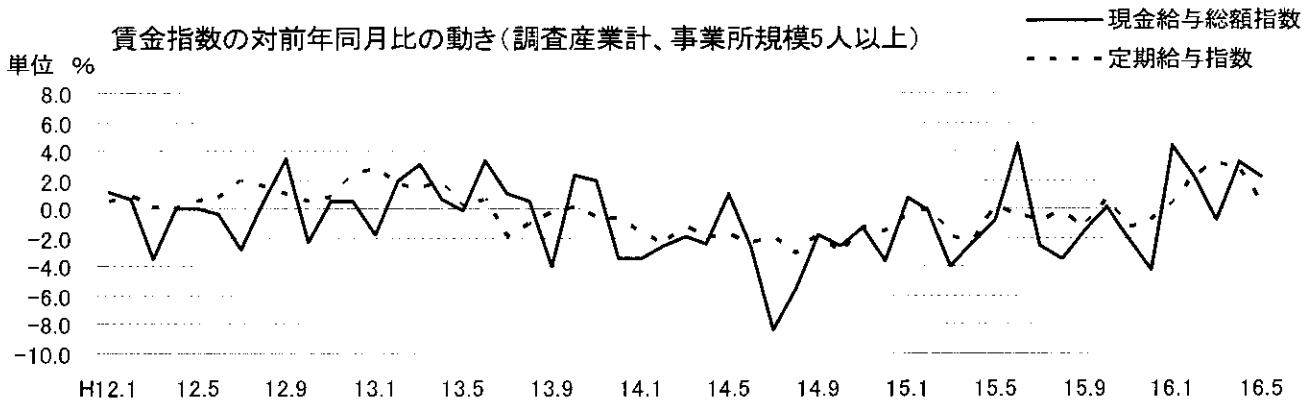
資料：県統計分析課「青森県鉱工業生産指数(速報)」

## (2-2) 雇用情勢

平成16年5月の現金給与総額は240,815円で現金給与総額指数(平成12年=100)では84.0となり、前年同月比2.2%増となった。このうち、定期給与は232,924円で定期給与指数では98.6となり、前年同月比0.4%増となった。実額で比較した定期給与の全国対比は86.4となった。

所定外労働時間は8.8時間で、所定外労働時間指数では102.3となり、前年同月比19.9%増となった。

平成16年6月の有効求人倍率は0.33倍で、前月を0.01ポイント上回った。

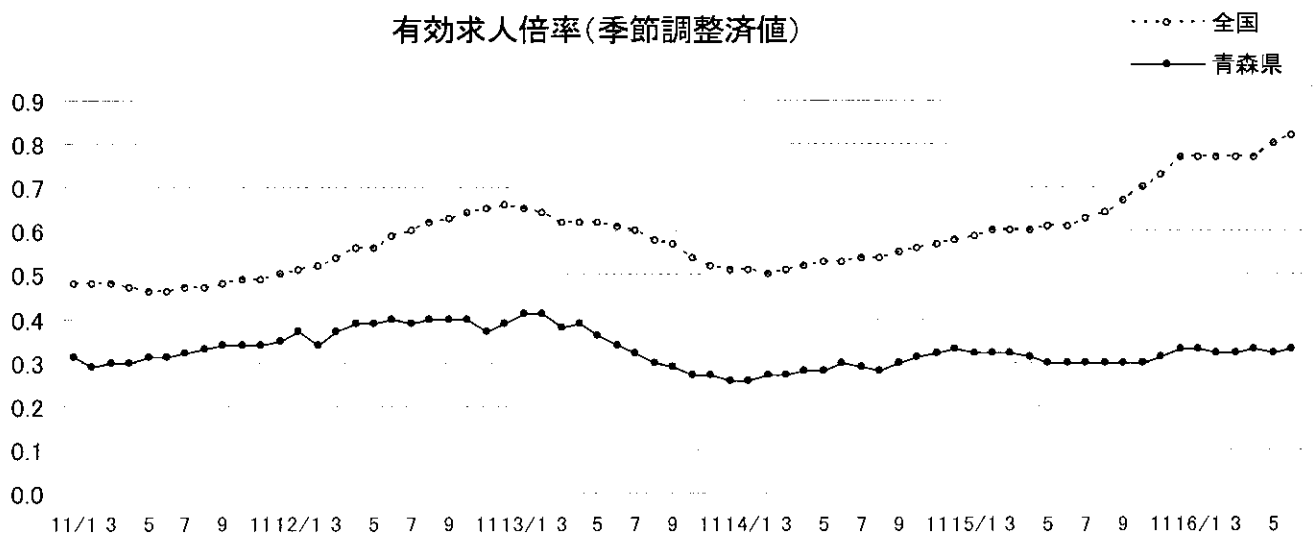


賃金及び労働時間の動き(調査産業計、事業所規模5人以上)

	実数		指数(H12=100)		対前年同月増減率	
	県	全国	県	全国	県	全国
現金給与総額	240,815 円	275,323 円	84.0	77.9	2.2 %	-0.6 %
定期給与	232,924 円	269,736 円	98.6	95.6	0.4 %	-0.9 %
特別給与	7,891 円	5,587 円	—	—	—	—
総実労働時間	150.0 時間	143.9 時間	94.6	93.3	-3.0 %	-4.3 %
所定内労働時間	141.2 時間	134.0 時間	94.1	92.9	-4.1 %	-4.8 %
所定外労働時間	8.8 時間	9.9 時間	102.3	100.0	19.9 %	3.1 %

(注) 1. 定期給与とは「きまって支給する給与」のことである。  
2. 前年同月比は指数によって算出している。

資料：県統計分析課「毎月勤労統計調査結果(速報)」

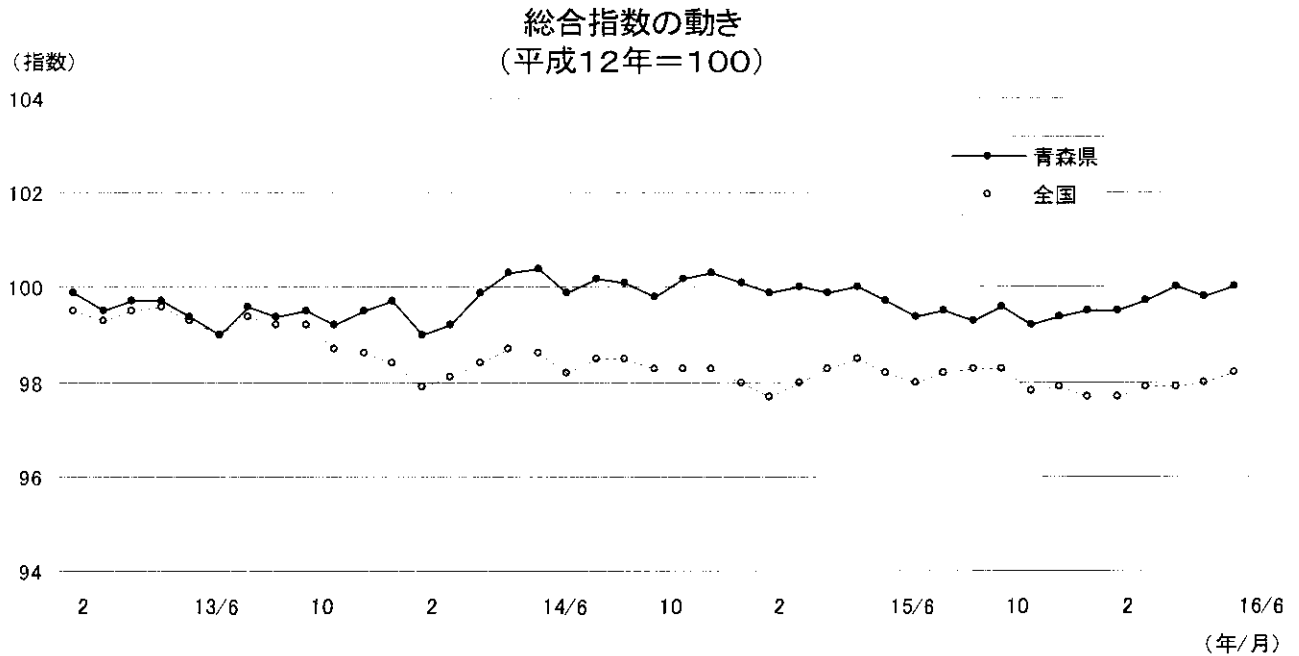


資料：青森労働局職業安定部職業安定課

### (2-3) 物価

平成16年6月の青森県消費者物価指数は、平成12年を100とした総合指数で100.0となり、前月比0.2%の上昇、前年同月比0.3%の上昇となった。

前月比の上昇要因は、食料（生鮮野菜）、交通・通信（自動車等関係費）などの上昇による。前年同月比の上昇要因は、教育（授業料）、諸雑費（かばん類）などの上昇による。



### 10大費目別指数の動き

(平成12年=100)

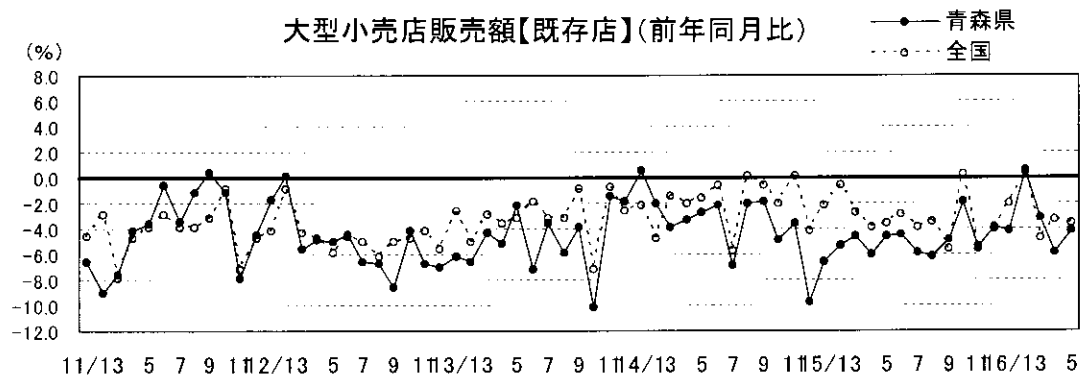
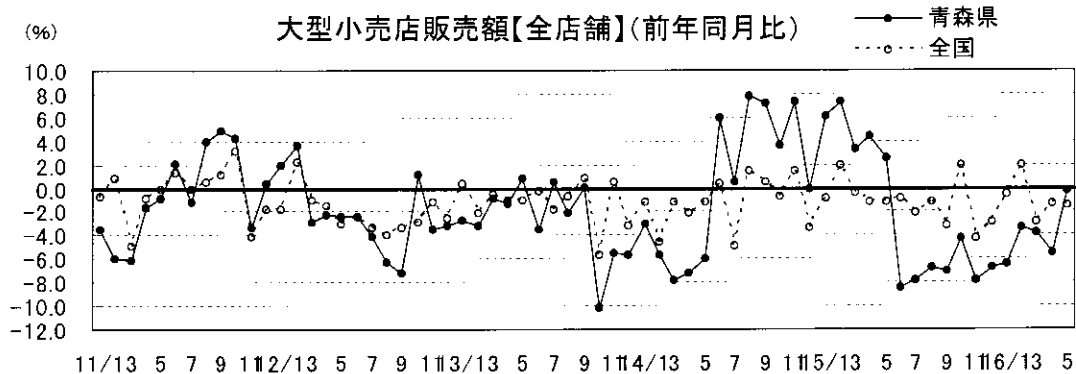
	総合	総合 (持ち家の 家賃を除く)	総合 (生鮮 食品を除く)	食料	生鮮 食品	住居	光熱・ 水道	家具 ・家事 用品	被服 及び 履き物	保健 医療	交通・ 通信	教育	教養 娯楽	諸雑費
当月指数	100.0	98.9	99.8	101.0	103.4	104.9	100.2	90.2	97.3	106.8	97.3	106.5	90.1	103.4
前月比	0.2	0.2	0.0	0.8	2.9	0.0	0.5	▲ 3.1	▲ 1.3	0.0	0.9	0.0	0.0	▲ 0.4
前年同月比	0.3	0.4	0.3	0.0	▲ 0.2	▲ 0.3	0.2	▲ 2.3	2.7	▲ 1.6	0.1	5.6	▲ 1.0	4.3

資料：県統計分析課「青森県消費者物価指数月報」（速報）

## (2-4) 個人消費

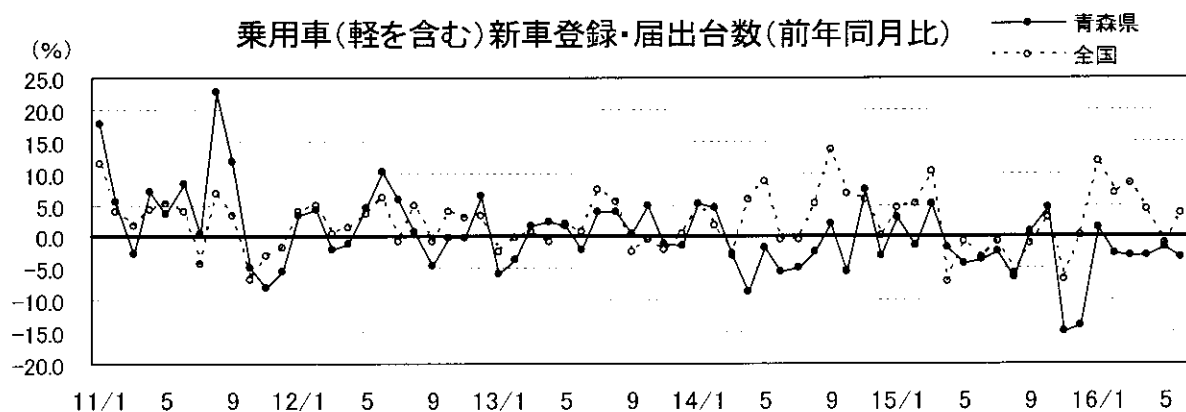
平成16年5月の大型小売店販売額は、全店舗ベースで前年同月比0.3%減の150億4千万円で12ヶ月連続のマイナスとなり、既存店ベースでも前年同月比4.1%減と3ヶ月連続でマイナスとなった。内訳をみると、スーパーは全店舗ベースで飲食料品等がプラスになったことにより2ヶ月ぶりにプラスになったものの、百貨店では、衣料品等がマイナスになったことにより前年を下回った。

平成16年6月の軽自動車を含めた乗用車新車登録・届出台数は4,026台で、軽乗用車は増加したものの、普通車、小型車が減少したことにより、前年同月比3.4%減となり5ヶ月連続で前年を下回った。



資料：東北経済産業局「東北地域大型小売店販売額動向」

\* 大型小売店は従業員が50人以上で売場面積が1,500平方メートル以上の商店をいう。そのうち、既存店とは、当月及び前年同月とも調査の対象となっている商店をいう。

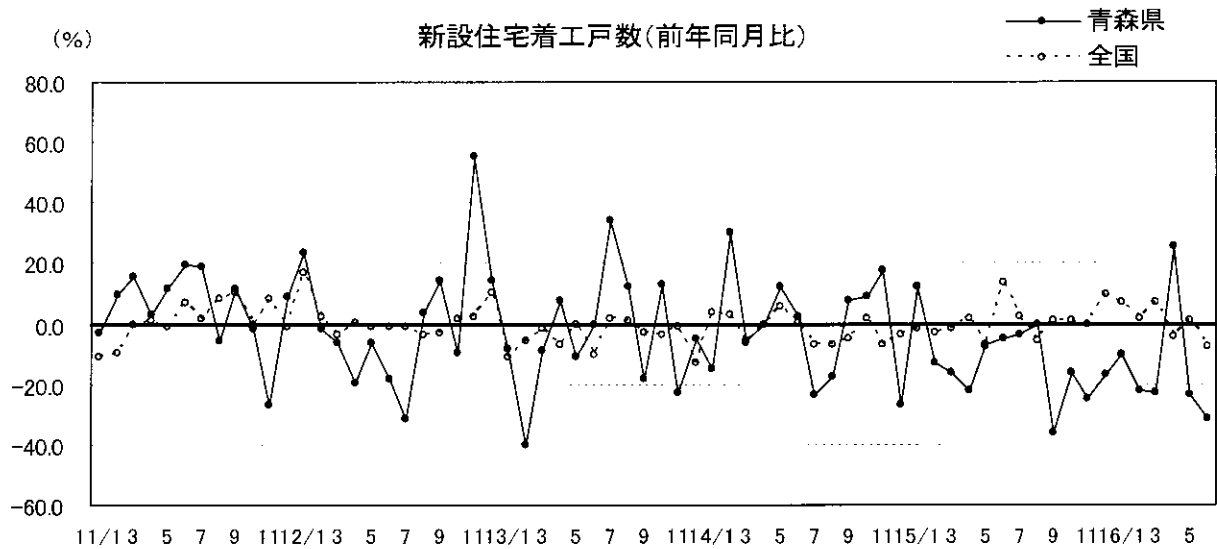


資料：青森県自動車会議所「車種別登録・届出台数」

日本自動車販売協会連合会「自動車統計データ」

## (2-5) 住宅建設

平成16年6月の県内新設住宅着工戸数は757戸で、持家、貸家などの減少により前年同月比31.4%減となり、2ヶ月連続で前年を下回った。

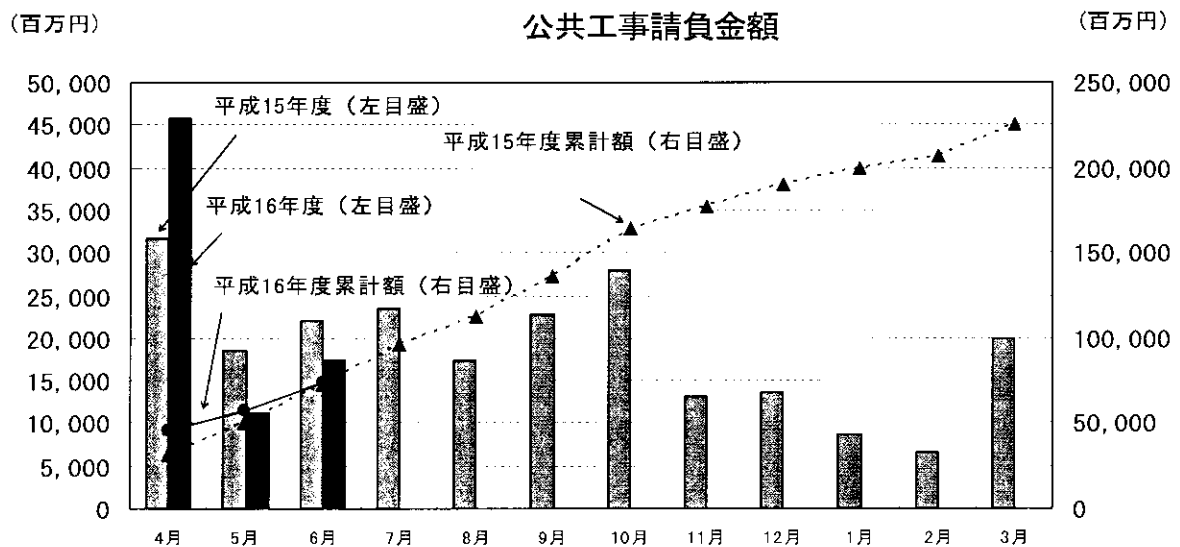


資料：県建築住宅課「建築着工統計」、国土交通省「建設統計月報」

## (2-6) 公共投資

平成16年6月の公共工事請負金額をみると、単月では174億4千万円で、前年同月比21.1%減となった。発注主体別にみると、市町村は同11.9%の増となったものの、国は同40.3%減、県は同25.2%減となった。

また、4月からの累計をみると、745億2千万円で、前年比2.9%の増加となった。



資料：東日本建設業保証(株)青森支店「青森県内の公共工事の動向」

### (3) 青森県景気動向指数

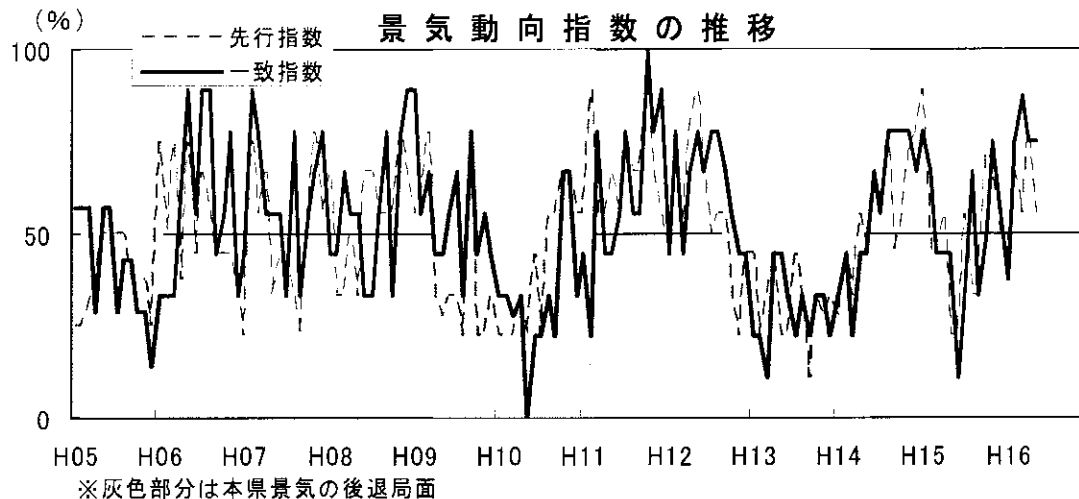
平成16年5月の青森県景気動向指数は、先行指数55.6%、一致指数75.0%、遅行指数42.9%となった。

先行指数は、4か月連続で50%を上回った。

一致指数は、4か月連続で50%を上回った。

遅行指数は、2か月ぶりに50%を下回った。

5月の一致指数は、生産関連の指標等がプラスとなったことから、50%を上回った。



#### ●個別系列の動き (各指標は季節調整等を行い、5ヶ月前と比較しています)

プラスの指標		マイナスの指標	
<b>先行系列 (9指標中5指標がプラス)</b>			
所定外労働時間指数 (全産業)	9か月連続	企業倒産負債額	3か月連続
建築着工床面積 (鉱+商+サ)	3か月連続	新設住宅着工戸数	2か月ぶり
中小企業景況DI	3か月連続	新規求人数 (常用)	4か月ぶり
入職率 (製造業)	2か月連続	生産財生産指数 ※2	4か月ぶり
乗用車新車登録届出台数	3か月ぶり		
<b>一致系列 (8指標中6指標がプラス) ※1</b>			
電気機械生産指数 ※2	10か月連続	日銀券月中発行高	6か月連続
海上出入貨物量 (八戸港)	6か月連続	雇用保険基本手当初回受給者数	4か月ぶり
鉱工業生産指数 ※2	5か月連続		
有効求人数 (常用)	4か月連続		
大口電力使用量	3か月連続		
大型小売店販売額 (実質)	2か月ぶり		
<b>遅行系列 (7指標中4指標がマイナス)</b>			
消費者物価指数 (帰属家賃除く総合)	5か月連続	常用雇用指数 (製造業)	11か月連続
勤労者世帯家計消費支出 (実質)	3か月連続	信用保証申込金額	5か月連続
1人平均月間現金給与総額	2か月連続	単位労働コスト (製造業) ※2	4か月連続
		輸入通関実績 (八戸港)	6か月ぶり

※1 一致系列の東北自動車道IC利用台数については、青森中央IC、青森東ICの開通による影響が大きいため、当面の間、判定に用いないこととする。

※2 鉱工業生産指数の年間補正に伴い過去に遡って改定を行った。

資料：県統計分析課「青森県景気動向指数月報」



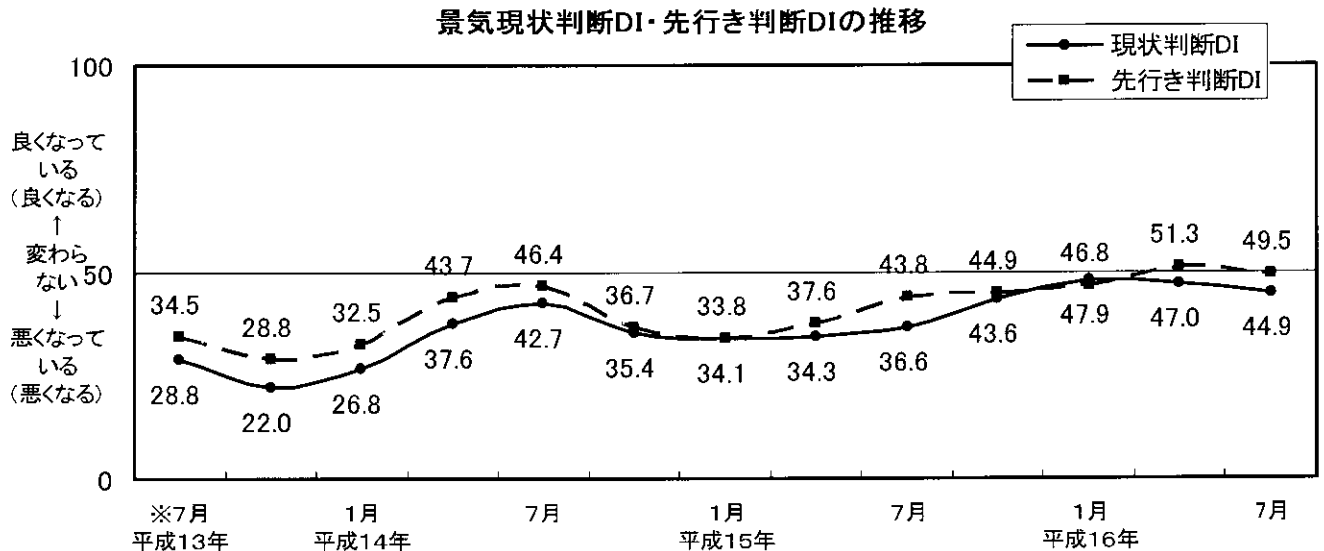
#### (4) 青森県景気ウォッチャー調査

平成16年7月期の景気ウォッチャー調査は、7月2日～7月23日を調査期間とし、回答率98%となった。

3か月前と比べた景気の現状判断DIは44.9で、前期調査より2.1ポイント下回った。

3か月後の景気の先行き判断DIは49.5で、前期調査より1.8ポイント下回った。

7月期は、現状判断DIは2期連続ポイントが減少し、景気の先行き判断DIは6期ぶりにポイントが減少し、いずれも横ばいを示す50を下回った。



※平成13年7月は試行調査

#### ● 3か月前と比べた景気の現状判断

動	<p>前期調査と比べると、「やや良くなっている」が減少し、「悪くなっている」が増加したことにより、全体では2.1ポイント減の44.9となり、引き続き横ばいを示す50を下回った。判断理由をみると、中央での景気が回復傾向にあるとは言えるものの、地方での中小企業倒産や商店街における小売店の閉店などが、依然として続いていることが挙げられている。</p>
向	<p>前期調査に比べて東青、津軽、下北地区では2～9ポイント減少したものの、県南地区では3.4ポイント増加し、2期ぶりに50を上回った。</p>

#### ● 3か月後の景気の先行き判断

動	<p>前期調査と比べると、「やや良くなる」が2.8ポイント減少したことにより、全体では6期ぶりに1.8ポイント減の49.5となり、横ばいを示す50を下回った。判断理由をみると、各種の景気に関する調査から中央での不景気は底を打ったのではないかと期待する一方で、その波及効果を期待するが、地方へはまだまだ時間がかかるのではないかとといったことが挙げられている。</p>
向	<p>前期調査に比べて、東青、津軽地区で2.5ポイント減少し、県南地区で1.7ポイント減少しているが、津軽地区では引き続き50を上回り、県南地区では50となっている。下北地区は前期調査に比べて2.2ポイント増加している。</p>

資料：県統計分析課「青森県景気ウォッチャー調査報告書」

## (参考) 景気ウォッチャーによる景気判断理由 (一部)

### ● 3か月前と比べた景気の現状判断理由

- ◎中国の景気の良さが、日本経済の回復の要因となっている。(電気製造業=津軽)
- 消費税総額表示後大きく冷え込む。5月後半から6月にかけてその反動の伸びがきている。(スーパー=県南)
- 営業拠点、倉庫などの引合いがでてきた。これは冷え切っていた設備投資が回復しつつある兆候と見られる。(建設=東青)
- 良くなっているのは一部で、全体的にはやはりお金を使わない。一部ではますます悪くなっている面も見られる。(観光名所等=東青)
- 新聞等では、回復の兆しと報じられているが、景気の良さが感じられない。(ガソリンスタンド=下北)
- 大手企業や中央の企業は売上げも回復してきているようだが、地方までは浸透していない。(食品製造=津軽)
- △様々な統計指数は景気回復を示しているが、個人消費の心理的マインドはいまだ冷え切っている。(百貨店=東青)
- △客数は同じくらいだが、一人当たり買い物をしていく金額が落ち込んでいる。(観光名所等=県南)
- ×売上げダウンし、閉店している店が多い。(美容院=津軽)

### ● 3ヵ月後の景気の先行き判断理由

- 今後3ヶ月の景気は、ねぶた祭り開催における観光客の流入が見込めることなどから多少の上昇は見込める。(商店街=津軽)
- 日本経済の回復を地方で実感できるには時間が必要。夏期の観光シーズンを迎え、県内景気回復への弾みを期待したい。(企業=東青)
- 昨年と比べ今年は天気も良く期待したいが、大きくは変わらない。(卸売業=県南)
- 多少の変化はあると思われるが、トータルの売上高はほとんど変わらないと思われる(旅行代理店=東青)
- 現在より良くなる要素が見あたらない。夏の祭り、観光、帰省に期待したい。(食品製造業=下北)
- △市町村合併の進行などで公共事業の進行が無く、ボーナスゼロの企業が多いようだ。そのためお金を使わない、使えないのが現状のようだ。(一般飲食店=県南)
- △建設業の仕事が半減しているから。(スナック=下北)
- ×国、県、市町村が赤字である限り、我々の消費者心理として良い影響を与えているとは思えない。(レストラン=県南)

記号の意味：◎良くなっている、○やや良くなっている、□変わらない、△やや悪くなっている、×悪くなっている

資料：県統計分析課「青森県景気ウォッチャー調査報告書」